北部保健所(中津地区)の感染症情報4月

2025年　第16週（4月14日～4月20日）

○感染性胃腸炎が多く報告されています。（17.33人/定点あたり）

感染性胃腸炎は、ロタウイルスやノロウイルスなどのウイルスや細菌によって引き起こされる胃腸の疾患で、一年を通じて発症します。ウイルスによるものは毎年秋から冬にかけて流行が認められます。症状は原因となるウイルス等によって少しずつ異なりますが、発熱、下痢（水様便、血便など）、腹痛、悪心、嘔吐などです。多くの場合、患者との接触や、汚染された水、食品によって経口的に感染します。手洗い、うがいを励行し、日常的に清潔を保つことが重要です。排便後や調理前は石けんと流水での手洗いが大切です。タオルの共用を避けることも必要です。十分な睡眠と栄養を取るように心がけ体調管理に気をつけましょう。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が急増しています。(9.33人/定点あたり)

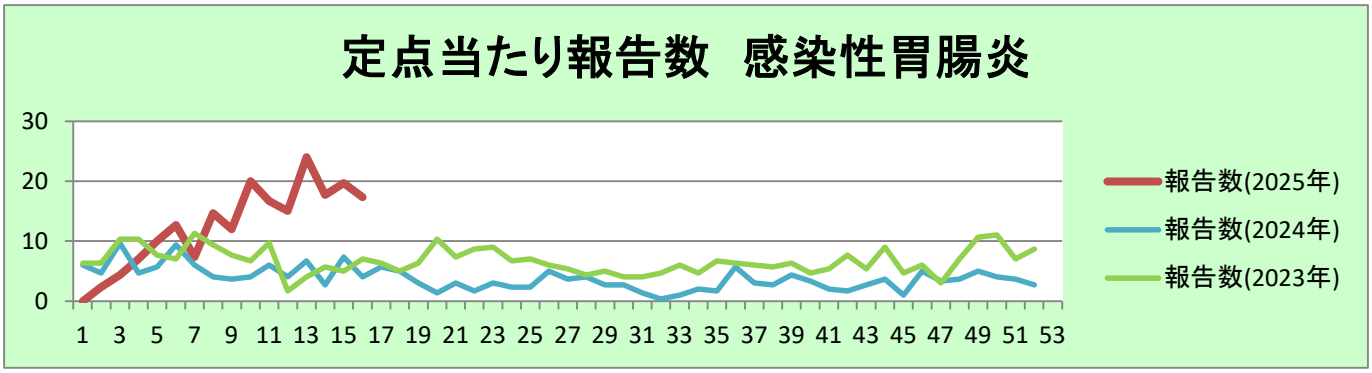
潜伏期間は２～５日とされ、突然38度以上の発熱、全身倦怠感、喉の痛みなどが現れ、しばしば嘔吐を伴います。また、舌にイチゴのようなぶつぶつができる「イチゴ舌」の症状が現れます。まれに重症化し、全身に赤い発疹が広がる「猩紅熱」になることがあります。合併症として肺炎、髄膜炎、敗血症、リウマチ熱、急性糸球体腎炎などを起こすことがありますので注意が必要です。初期症状は風邪に似ていますがウイルス性の風邪とは違い、抗生物質がよく効きますので、処方された薬はきちんと服用して除菌することが大切です。

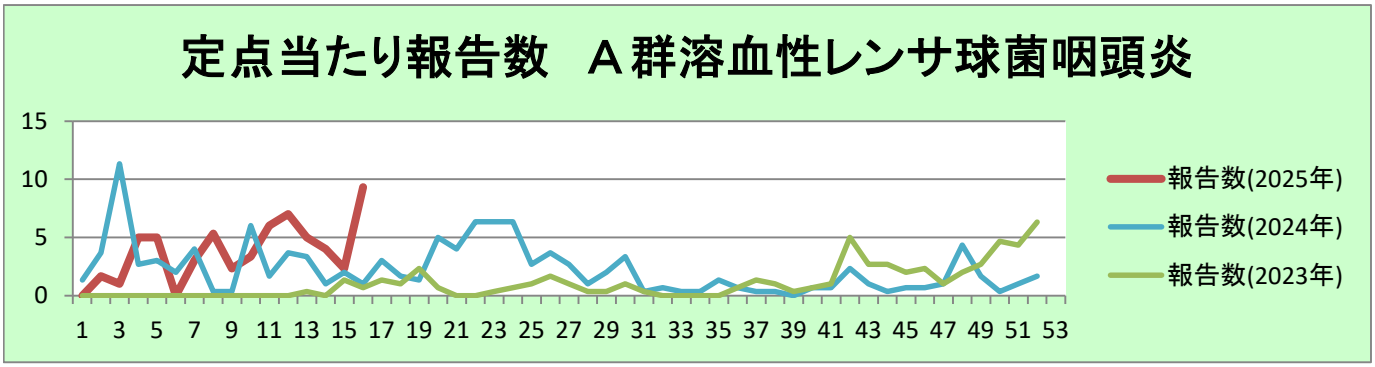
○百日咳に注意しましょう。

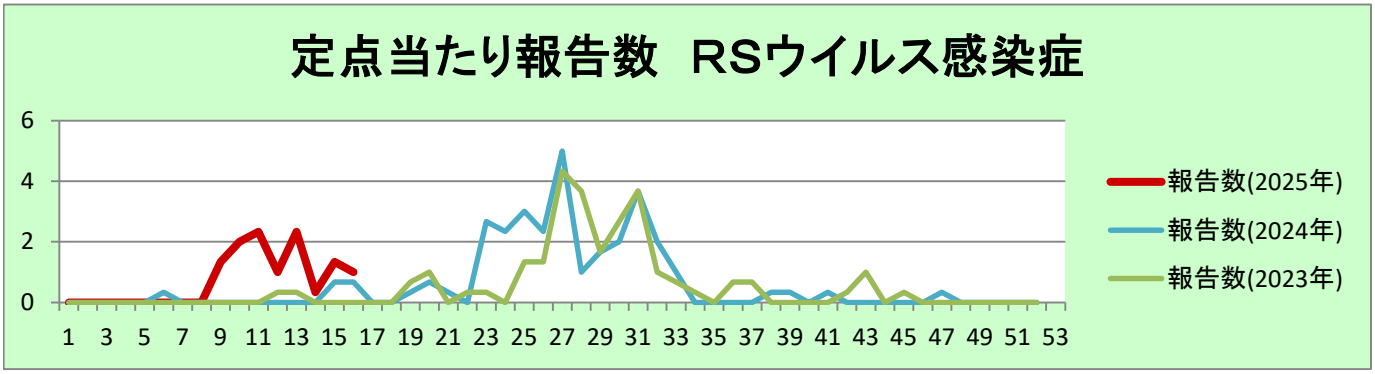
百日咳は、世界的にみられる疾患であり、小児に多くみられ、重症化しやすく、特に1歳以下の乳児には注意が必要な感染症です。通常7～10日間の潜伏期間を経て、臨床経過は、普通のかぜ症状で始まる「カタル期」（約2週間持続）、特徴のある発作性のけいれん性の咳（痙咳、けいがい）がでる「痙咳期」（約2～3週間持続）、激しい発作性の痙咳が減衰し、回復へ向かう「回復期」（2、3週～）に分けられます。成人の百日咳では咳が長期にわたって持続し、典型的な発作性の咳嗽（がいそう）を示すことなく、回復に向かうことが多いですが、菌の排出があるため、注意が必要です。主な感染経路は咳やくしゃみなどによる飛沫感染ですが、接触感染にも注意が必要です。咳が出るときはマスクを着用するなど咳エチケットを徹底することのほか、手指消毒・手洗いの励行など基本的な感染対策が大切です。

	インフルエンザ			RSウイルス感染症	咽頭結膜熱（プール熱）	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘（水ぼうそう）	手足口病	伝染性紅斑（リンゴ病）	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	マイコプラズマ肺炎	新型コロナウイルス感染症
	A型	B型	不明												
0歳				0.33	0.33	0.33	0.67				0.33				
1～3歳				0.67	0.33	1.67	3.33	0.33			0.67				
4～6歳						4.67	6.67								
7～9歳						2.33	5.67								
10～14歳							1.00	0.33							
15～19歳															
20歳以上						0.33									0.20
計				1.00	0.67	9.33	17.33	0.67			1.00				0.20
70歳以上（再掲）															
前週		0.60		1.33		2.33	19.67				0.33				0.40
	0.60														

※指定された医療機関（定点）から報告された患者数を、1定点あたりに換算して計上(定点医療機関 インフルエンザ定点5、小児科3)
※端数処理のため、合計と年齢ごとの数値は一致しないことがある。







疾患ごとの警報・注意報の基準値は以下のとおりです。

症状	流行発生警報		流行発生注意報
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	－
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	－
感染性胃腸炎	20	12	－
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	－
伝染性紅斑	2	1	－
ヘルパンギーナ	6	2	－
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	－
流行性角結膜炎	8	4	－

・「警報」：大きな流行が発生または継続しつつあると疑われることを指す。

・「注意報」：流行の発生前だと、今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いことを指し、流行の発生後だと流行が継続していることが疑われることを指す。

お問い合わせ　　北部保健所　0979-22-2210

a12089@pref.oita.lg.jp